

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101669		
法人名	社会福祉法人 凌雲堂		
事業所名	認知症高齢者グループホーム悠悠		
所在地	宮崎県宮崎市大字跡江2366番地		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和4年11月22日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の尊厳を大切に考え、その人がその人らしく、日常生活が送れるように、不安を軽減し持っている能力発揮できるように努めている。ホームでの生活を充実できるように、一人一人に寄り添い、本人に合わせた支援に取り組んでいる。本人の自己表現を支援する事が出来る様に、地域ケアや認知症ケアの充実を図っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街に設置され、敷地内には関連施設があり、防災や研修会などの際に連携を図っており、職員の研鑽やケアへの反映に取り組んでいる。  
職員一人ひとりが明確な目標をもち、また利用者の尊厳や個々の能力を活かせるように日常のケアに取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を職員が理解できるように、年度初め終わりに、理念について話し合いを行っている。年度目標を作成している。利用者の方が毎日笑顔で過ごせるよう努めている。	グループホームの理念を職員全体で把握し、年度別の目標を掲げ、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域が主催する会食会、サロン、文化祭等に参加し交流を図っていたが、現在は新型コロナウイルス感染症予防で自粛している。	近隣には2つの自治会がある。感染症対策のために積極的な外出は控えているが、他者との接触の少ないドライブや地域の方と書面での交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防で会議等はないが文書にて送付している。以前は、運営推進会議等で地域自治会役員の訪問時に、研修会での学びや施設での対応方法など認知症の理解や支援方法を伝えていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の構成員により会議を開催し、交流を図っている。質問、要望を受けサービスの向上に努めている。現在は新型コロナウイルス感染症予防で文書発送して意見を頂いている。	利用者家族全員が推進会議のメンバーである。地域の方へも感染症対策のために早めに連絡を入れることで推進会議が開催できるように取り組んでいる。会議で出た防災などの内容も運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、地域包支援センターの職員、福祉コーディネーターの参加があり、連携を図りながらサービスの向上に繋げている。包支援センターが主催する会議、研修会にも参加している。現在は新型コロナウイルス感染症予防で自粛している。	地域の2つの地域包括支援センターや市の介護保険課とも運営に関する手続きの問い合わせや、市が主催する研修に参加し日常的な連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、法人の身体拘束委員会に参加し、定期的に勉強会を行っている。職員は、禁止項目の具体的な項目を理解し、緊急やむを得ない場合以外は拘束をしないケアに努めている。	同敷地内の関連施設と連携で研修会を開催している。物理的な身体拘束をはじめ、日常的な声掛けでの利用者の行動制限の廃止など、職員や法人全体で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、法人の身体拘束、虐待防止委員会に参加し定期的に、勉強会を行っている。外部研修に参加し制度について学び理解を深め虐待防止に努めている。職員会議、申し送り等で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族、利用者から制度の説明についての申し出があった場合は対応できるように、参考資料や研修にて学び努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明を行い、解約(退所)時には理解、納得が得られるように十分説明に努めている。又重要事項の変更の際には、各家族に連絡し直接説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、運営推進会議等において、家族からの意見・要望が出るように配慮し、遠足等の行事で家族同士が交流の機会を設け、改善に取り組んでいる。現在は新型コロナウイルス感染症予防で集まる機会が設けられていない。	現在は短時間での面会をホームで実施しており、その際や電話等で家族の要望や意向を聞き取り、ホームの運営やケアの実践、介護計画の内容に意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等において、運営に関する方針について、意見を聞く場を設け、職員からの意見や提案を聞き事業に反映できるように努めている。	ホームの職員会議を月1回、職員個人の面談を年1回実施し、業務改善をはじめ、職員の配置などにその意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を整備するとともに、人事考課制度により、意欲、資質の向上に繋げながら、話しやすい環境を作り、各職員が働きやすいように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己研鑽の為に、職員が法人内外研修に参加できる環境をつくり参加している。各個人が学び易いように、インターネットを活用している。職員会議等での研修報告を行い共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター、連絡協議会主催の施設研修に参加し他施設との交流、情報交換を図っている。現在は新型コロナウイルス感染症予防でインターネットを活用して参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用にあたっては、事前に面会の場を設け、利用者の不安なこと、困っていることに耳を傾けながら、日々本人の訴えに対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等の相談に耳を傾けながら、家族が納得理解したうえで、安心でき、利用できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にとって必要なサービスは何かを見極めながら、相互に話を行い納得した上でサービスの提供に努めている。又相談内容については、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者、共に支え合い、一緒に寄り添いながら生活を送っている。また、洗濯物たたみを共に行いながら、行事等の参加を促して、一緒に過ごす時間を設ける等して、共に支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会や連絡等で情報交換を行っている。本人と家族の絆を大切にしながら、共に支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が継続できるように、知人の方の面会や電話、手紙等を通して努めている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防で自粛している。	感染症対策のために、積極的な外出は控えているが、他者との接触の少ないドライブや年賀状などのやり取りで関係性の継続を支援している。面会も時間の制限を設け一部実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、お互い助け合えるように努めて支援を行っている。利用者の関係がうまくいくよう職員は間に入り支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子を家族との連絡で確認を行いながら努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉、行動に注意し、利用者が何を望んでいるのか、思いを把握できるように努めている。家族からの情報や他職員の意見を聞きながら、本人本位のケアマネジメントを行うよう努めている。	初回は介護支援専門員、以降は月1回のモニタリングをはじめ担当者が本人や、家族の意向を聞き取りケア実践に取り組んでいる。市主催のセンター方式の研修会にも参加し、一部採用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から情報収集を行い、生活歴等の把握を行い、その人らしい暮らしが送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの生活の中で、利用者の現状状態を観察し、把握に努めている。変わった様子であれば記録し、家族との連絡をとり、情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、職員との話し合いを行いながら実行可能で、その人にあったケアプランの作成に取り組んでいる。主治医の意見も確認しながら健康管理にも努めている。	介護支援専門員や各担当者が作成した計画を職員全体で意見交換を行ったり、家族にもその内容を電話で聞き取りを行うなど、計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子に変化があった時、気になる事があった際には、ケースに記録を行いながら、状況の把握に努めている。介護計画の評価を行いながら定期的な介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	好みの趣味に対応できるように努めている。外出機会やドライブ時に、自宅近く周辺をめぐると、柔軟な支援に取り組んでいる。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「悠悠」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が生活していた地域の行事参加や地域高齢者との交流を通して、安全で豊かな暮らしが送れるよう支援に努めている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防で自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を優先している。体調の様子を知る為に家族が受診同行の利用者もあり、その場合は病院への情報提供を行い連携に努めている。事業所の協力医、かかりつけ医との連携を行っている。新型コロナウイルス感染症予防で職員が付き添いを行っている。	入居前からの主治医との関係性を尊重している。現在は往診・受診は半々で、受診の際は職員・家族も同行し、受診の支援や情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の施設の看護師に健康管理や医療面、本人に異常が見られた時は、相談し、助言を貰いながら支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療機関と情報交換を行いながら、家族を含めて随時情報提供を行うことで、早期退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化した場合に今後の方針については、本人・家族を交えて話し合う場を設けている。他施設の紹介を行ったり、終末期の在り方についても本人や家族、かかりつけ医、協力医と相談しながら対応している。	看護師の職員配置の関係で、ホームでの看取りは行っていないが、利用者・家族共に終末期でのカンファレンスを密に行うことで終末期の不安が解消できる様に取り組んでいる。必要に応じて他施設の案内等も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や応急措置についての勉強会を行ったり、インターネットを利用して、緊急時の対応の実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害・地震訓練年1回、自衛消防訓練年2回を隣接施設の協力を得て、実施している。夜間想定訓練も行い、避難誘導できるよう訓練を行っている。災害には、隣接施設との協力体制を築いている。	同敷地内の関連施設と連携を図り、水害・火災(夜間想定)・地震等の訓練を行っている。また水害などでは自治会からの意見なども反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、利用者のプライバシーに配慮し言動に十分に留意しながら、尊厳に気を配り努めている。	声掛け、呼称での十分な配慮をはじめ、同性介護や排泄時の入り口の開閉など日常的にプライバシーの配慮に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が決定できるよう環境を整え、納得を得た上での支援に努めている。また、職員や関係者を交えての説明で、本人が理解・納得いく対応が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けを行い状況を観察した上で、利用者一人ひとりのペースに合わせて、個別の対応に配慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容でカットをしておしゃれを楽しみめるように努めている。常に身だしなみには気を配っている。今年度はコロナウイルスの影響で回数が減っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食器拭きやお膳拭きを行っている。下膳ができる利用者は自主的に取り組んでいる。	法人全体がセントラルキッチンで調理。個々の能力に応じて食事前後の準備や後片付けをしてもらい、生活習慣や個々の機能を維持している。音楽をかけ、落ち着いた雰囲気ですぐに食事ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者が食べやすい食事形態、量を観察し記録しながら対応している。一日1200kcal、水分を1500cc摂取できるように、摂取回数を多くして努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けや介助を行いながら口腔ケアに努めている。また、週2回義歯の洗浄を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛け、誘導を行ないながらトイレでの排泄に繋がるように努めている。利用者の行動を確認把握しながら、排泄に繋げている。	自室にもトイレが設置。定期的な声掛けやトイレ誘導を行い、失禁を防ぐことでパットの枚数などが少なくなるようにしている。また排泄に執着が強い方は散歩などで気分転換を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、毎朝健康体操、室内散歩を行い、法人栄養士献立のもと食事を提供している。また、排便チェック表を使用して、排便の状態を職員全員が把握できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する利用者に対しては、言葉掛けを工夫したり、日時、時間を変えたりし入浴できるように努めている。	週2～3回と個々の希望に合わせて入浴回数を設けている。ホーム内は天然温泉が出ている。その他季節湯を楽しんだり、同性介助に配慮するなど入浴を楽しめるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多く取り入れながら、夜はゆっくり眠れるように努めている。寝付けない利用者には話し相手になったり、お茶を提供するなど工夫して、安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用量や処方について、日々観察し状況を病院受診時、家族に情報提供している。主治医から処方された薬の働きや副作用を職員は理解に努めて服薬の管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で楽しみの一つとして役割を見出しながら、交流の場で披露してもらったり気分転換等に努めている。又読書や色塗りなど個々に合わせた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足、買い物、ドライブ等の施設行事やふれあい会食会やサロン等の地域の行事、一人一人の希望を聞き家族の協力を得ながら、外出の機会を設けて支援している。現在は新型コロナウイルス感染症予防で交流する機会が少ない為ドライブの回数を増やしている。	感染症対策に留意し、積極的な外出は控えているが、ドライブや敷地内の散歩を日常的に行い、気分転換や四季が楽しめるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を預かり管理している。買い物に職員と出掛けたり、移動販売等にお金を持って行き、購入している。現在は新型コロナウイルス感染症予防で自粛している事が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に電話をかける、手紙の代読や手紙を出したりする等の支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇には花を植え、季節感が感じられるようにしている。かたらいの間には、リクライニングソファを設置し、音楽を流しながら居心地のよい工夫に取り組んでいる。	ホーム全体やホールが広く作られている。室内はソファの高さ、音楽など落ち着いて過ごせる工夫がされている。感染症対策で外出が制限される中、中庭を改装し、おやつなどを取れる空間にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にはソファを設置し、利用者同士が思い思いに過ごせるように環境の配慮に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各利用者の家族の写真や本、洋服等が置かれ、本人が居心地よく生活できるように努めている。又自分の居室が分かるように入り口に写真を貼っている。	各居室に洗面所、トイレが設置されている。また居室入り口には利用者の写真が掲示され、分かりやすくしている。慣れ親しんだ家財なども持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりのアセスメントをしっかり行い、「できること」「分かること」の把握に努めている。日々声掛けや様子観察を行い、安全に生活できるように各部屋の環境整備に努めている。		